予　算　要　求　資　料

令和３年度当初予算　　支出科目　款：総務費　項：企画開発費　目：企画調査費

事業名　教育普及活動費

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

岐阜県美術館　総務部　管理調整係　電話番号：058-271-1313

E-mail：c21801@pref.gifu.lg.jp

１　事業費　　1,061 千円（前年度予算額：1,061 千円）

＜財源内訳＞

区　分	事業費	財源内訳							
		国　庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県　債	一　般 財　源
前年度	1,061	355	0	0	0	0	45	0	661
要求額	1,061	469	0	0	0	0	0	0	592
決定額	1,061	469	0	0	0	0	0	0	592

２　要求内容

（１）　要求の趣旨（現状と課題）

教育普及活動

日比野克彦館長ディレクションのもとで展開中の「ナンヤローネプロジェクト」について、核となるナンヤローネアートツアー「SuchSuchSuch(あんな/そんな/こんな)」には、平成 27 年度以来のべ約 10、000 人以上の人が参加し、ナンヤローネワークショップにおいては、より幅広い年齢層のニーズに対応し新たな参加者を得た。

令和３年度は、コロナ禍によるステイホームの長期化を念頭に、オンラインでの教育普及事業を設けて「新しい生活様式」の中に美術館の存在を強く意識させ、ナンヤローネプロジェクト事業を一層推進するとともに、県内での教育普及活動の実績を積みあげていく。

スクールミュージアム

本事業の推進は、次代の美術文化を支え、かつ将来の来館者である児童・生徒を育成する契機となり、将来的な芸術文化の振興に必要である。

令和３年度も引き続き開催を希望する教育機関を調査し、次年度以降の実施を検討する。

（２）事業内容

教育普及活動

① ナンヤローネワークショップ（展覧会の展示作品にちなんだワークショップ）

② ナンヤローネアートツアー(日比野館長によるアートコミュニケーション作品《SuchSuchSuch》　(あんな・そんな・こんな)を核とし、すべての人を対象とした新しい鑑賞体験教室)

③ 地域との連携事業(現代陶芸美術館、県博物館、県図書館、ぎふ清流文化プラザ、アクティブG、アクアトト　等)

④ 出張出前講座

⑤ 刊行物（事業報告）の製作

スクールミュージアム事業

要望のある教育機関の調査。

（３）県負担・補助率の考え方

県民が芸術文化に触れ、身近に親しむことを通して、文化的な感性を高めていく機会に資するものとして、県の負担は妥当である。

（４）類似事業の有無

無

３　事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	122	準備旅費、広報旅費、講師旅費
需用費	747	消耗品費、打合せ会議費、チラシ印刷費
役務費	43	保険料
委託料	55	看板等製作費
報償費	94	講師謝金
合計	1,061	

決定額の考え方

事　業　評　価　調　書（県単独補助金除く）

□	新規要求事業
■	継続要求事業

1　事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

ナンヤローネプロジェクトを通して、幼児から一般まですべての県民の文化振興に寄与する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値（前々年度末時点）	目　標	達成率
	（H　）	（H　）	（H　）	（H　）	（H　）	%
	（H　）	（H　）	（H　）	（H　）	（H　）	%

○指標を設定することができない場合の理由

開催の場所、時期、内容によって参加者数等が異なるため明確な指標を設定することができない。

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

R2 年度ナンヤローネワークショップ　4 回　参加人数　0 人(R2.8 現在)
R2 年度ナンヤローネアートツアー　12 回　参加人数　63 人(R2.8 現在)
R2 年度団体鑑賞　5 回　参加人数　305 人(R2.8 現在)
R2 年度オンライン講座　2 回　参加人数　59 名　(R2.8 現在)

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

日比野館長ディレクションによる「ナンヤローネ」プロジェクトを根幹に、館外でワークショップ、アートツアーを行うとともに、コロナ渦におけるオンライン事業を展開することで、広く県民に美術館の新しい鑑賞教育を提供することができた。

今年度は館内でワークショップ、アートツアー、オンライン事業を定期的に行うとともに、前年度連携した館外の施設とも連携し、出前ワークショップ、アートツアーを行う。また、新設されたアートコミュニケーターとも連携し、美術館の新しい在り方を来館者とともに考え、提案していく。

２　事業の評価と課題

（事業の評価）

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い　　△：必要性が低い	
（評価） ○	２０２０年代に向けて、美術館も広く社会との連携が求められており、本事業は、美術館における根幹の事業であり県の関与が妥当である。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
（評価） ○	岐阜県美術館教育普及事業に対する県民の期待は大きく、事業への参加者も定着している。本事業は美術館の新しい方向性を打ち出すもので、期待以上の成果が得られている。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている　　△：向上の余地がある	
（評価） ○	令和元年度に教育普及事業、拡大事業、広域美術館事業の３本を１本化し、事業費と内容を精査した。

（今後の課題）

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 参加者のニーズが多様化するなかで、リピーターの要望に応えながら、新しい来館者の開拓が必要である。内容の充実と効果的な広報活動が課題である。

（次年度の方向性）

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 美術館にとって普及事業は常に県民のニーズに答えていく事業である。参加者の声に耳を傾けながら、美術館の新しいあり方を県民に提案していく。

（他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果）

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果　など	